



Pick Up News 2月は卒業論文・設計の発表会、修士設計・論文の発表会、そして月末には(例年はせんだいメディアテークで行っているのですが、今年は会場の都合で利用できず)建築学展A・を10号館のtohtech FORUMにて開催しました。卒業設計・修士設計の公開発表審査会では、伊藤博氏(学科OB)、大嶋貴明氏(画家)、大野秀敏氏(アプルデザインワークショップ・東京大学名誉教授)、城戸崎和佐氏(城戸崎和佐建築設計事務所・京都芸術大学教授)、本江正茂氏(東北工科大学院准教授)の錚々たるメンバーをお招きして、学内発表を経て選ばれた、卒業設計11名と修士設計2名が発表しました。審査の結果、最優秀賞(尚建会大賞)には須藤寛天さんの『美術館建築』が、優秀賞(尚建会賞)には今井次元さん、修士設計では経済交流会賞に小山田陽太さんの作品が選ばれました。そのほか各審査員賞も贈られました。授賞とは学位授与式にて執り行われます。さて、学生の皆さんは春休みに入っていますね。新年度開始まで、思い思いに自由に過ごすことができる貴重な時間です。このような時間を味わうことができるのは、大学生の特権です。旅行・建築探訪、趣味活動、資格試験勉強、コンペ参加、アルバイト…などなど、貴重な時間を有効に使って下さい。4年生と修士2年生は新生活に向けての準備も忙しいかと思いますが、残りの学生生活の時間を大いに楽しんで下さい。

卒業論文【新井研究室(計画系)】 ■空き家を活用したシェアアトリエのセルフリノベーションプロセスに関する研究ー塩竈・本多工房を対象としたアクションリサーチー
 ■キッチンカー利用に伴う空間の価値の向上に関する研究ー仙台市内のキッチンカーとその空間の利用実態ー ■障がい児とその保護者におけるインクルーシブな遊び場及び外出時のニーズに関する研究【石井研究室(計画系)】 ■障害者支援施設の建替えに伴う環境移行に関する研究ー個室ユニット型への建替え後の調査分析ー ■特別養護老人ホームの生活と介護における空間利用と行為の分析【不破研究室(計画系)】 ■卸商業団地における敷地利用とその変遷に関する研究ー仙台市若林区卸町を対象としてー ■宮城県東北における市町村合併による市役所の再編に関する研究【フラー長井線にみる地方鉄道による地域活性化策の現状に関する研究】 ■東北地方における復元城の現状とその保存活用の実態に関する研究 ■山形県置賜地域における廃校校舎の利活用に関する研究【中村研究室(歴史・意匠系)】 ■昭和中期の東京のデパート内にあった白木屋茶室と三越本店「樹庵」ーホテルニューオータニ「和楽庵」と駒澤大学「而今庵」ー ■五所川原市の重要文化財・旧平山家住宅の近代和風建築の「離れ」について ■大石武学流庭園「瑞雲園」の近代和風建築と庭園 ■気仙大工左官伝承館の道具のデータベース化とその評価-気仙大工の平鉋を中心にー ■岩手県奥州市水沢の近代和風建築・料亭「小万梅」に関する研究 ■慧日寺門前集落の屋敷構えと集落形態の研究 ■白河城下町の町家・今井家住宅についてー幕末と明治後期の家相図と現存建物の比較研究ー ■白河城下町における松平定信ゆかりの寺院建築-松平家の菩提寺・常宣寺と祈禱所・龍蔵寺について-【大石研究室(環境・設備系)】 ■住宅市場と消費者ニーズに関する研究 ■大学キャンパスにおけるエネルギー利用実態に関する研究 ■3Dモデルを活用した大学キャンパス建物のエネルギー評価に関する研究 ■九州西南地域における牛舎の温熱環境改善に関する研究 ■パナマ画像による駅前空間の視覚的印象に関する研究【許研究室(環境・設備系)】 ■ベルチエ素子を活かした二重窓の提案案に関する研究 ■BIM技術を活用した電気設備シミュレーションの研究-電気設備システムの作成及びIFCデータの情報解析- ■BIM技術を用いた熱源機器配管の設計に関する研究 ■三次元熱伝導を考慮した建築外皮の熱移動に関する研究 ■BIM技術を用いた住宅外皮性能の評価に関する研究【鍵屋研究室(環境・設備系)】 ■自律走行するロボットの研究-建物内の移動方法の標準化のための基礎研究 ■災害復興からみた東北地方のグリーンインフラに関する研究 ■家を知能化するー建築設備や家電の進化がライフスタイルに及ぼす影響 ■東北地方におけるスマートシティの導入方法に関する研究ー山形市におけるケーススタディ ■災害時における屋内遊技施設の避難誘導方法の検討ー「いちご」店の実態調査 ■電気自動車の普及に伴うガソリンスタンドのエネルギー供給拠点としての活用方法 ■ロボットが生活に溶け込む環境づくりー建築・都市における近未来のパーソナルモビリティの安全確保に関する研究 ■災害時を考慮した地下空間の利用方法に関する研究【渡邊研究室(環境・設備系)】 ■2022年夏期の仙台都市気候測定と海風の冷却効果に関する基礎的研究【有川研究室(材料・生産系)】 ■環境保全から考える中大規模木造建築と大径木の活用 ■庁舎建築の保存再生における社会性評価に関する研究 ■仙台市の公共建築改修工事における入札状況に関する調査研究【菊田研究室(材料・生産系)】 ■FRCCを用いた軽量・高靱性ハニカムパネルの基礎的研究 ■繊維補強コンクリートの曲げ性状に及ぼす繊維の複合混入効果に関する研究 ■断熱モルタルの熱特性に及ぼすCNFおよびリントーの影響に関する研究【佐々木研究室(材料・生産系)】 ■東北地方の建設業における技能実習生の受入事業に関する研究 ■Covid-19による建設現場における東南アジアでの影響 ■近年における気仙大工技能の継承に関する研究【薛研究室(構造系)】 ■中間免震層構造の最適免震位置ー剛性の異なるモデルによる検証ー ■液体2種と球体を用いたハイブリッド制振法の最適位置 ■雨天時におけるヘルスモニタリングシステムの性能変化と革命【曹研究室(構造系)】 ■物体検出技術を用いたSIMの特定点の精度向上に関する研究 ■LSTMを用いた建造物の振動特性の推定 ■GANを用いた建造物の振動特性の推定【船木研究室(構造系)】 ■慣性質量効果を有する液流ダンパーを用いた3層骨組の振動台加振試験 ■慣性質量効果を有する液流ダンパーを用いた3層骨組の振動応答解析 ■危険性自己発信型あと施工アンカーの開発 ■体験型津波建築実験による伝承法の効果に関する研究

卒業設計【新井研究室(計画系)】 ■不來方にもてる灯り ■ For my buddy~共に生きる~ ■アートが広げる輪 ■未来へ図書館をつなぐー宮城県図書館リノベーションー ■線から枝へー一本の道から始まる ■還帰~KANJIU~【石井研究室(計画系)】 ■人と町をつなげる傘ー丘陵地域における未来の建築提案ー ■歴史の居場所一本の活用と戸ヶ崎の活性化ー ■繋ぎ癒しとしての混ざり、繋がるー温泉地を利用した多世代交流の居場所の提案ー【不破研究室(計画系)】 ■今昔を映す水景建築ー空間とサイクリングを通した河川との関わりー ■ SITE REPAIRー仙台の都市空間を対象としたパブリックデザイン-パタンを用いた空間の再構築ー ■辿るー地域資源再認識と未来の構築ー【福屋研究室(歴史・意匠系)】 ■砂防林物語のこれから ■都市の記憶装置 京島の断片から立ち上がる建築 ■結 農村との関わり方と新しい結の提案 ■ Herschelー嗅覚による記憶の再起ー ■ SEEK OUT FILME version001 ■アートのマチからアーティストのマチへー空き地の利活用とマチの更新手法の提案ー ■地域文化創造 多賀城跡との対話 ■美術館建築 ■ポップゴースト ■農が街を創り、街が農を作るー郊外都市における農業振興の提案ー【有川研究室(材料・生産系)】 ■国産材利用を促進する複合施設的设计案

Pick Up Lab. 「物量多く」、「計画的かつ瞬発的に」、「底上げ」という3つの姿勢を目指しているのが齋藤研究室です。どれも自ら学ぶこと、他者と対話することの両方によるもので、研究室という大学生活後半の中でより周りと自分が見えてくると思います。つまりはインプット、アウトプットを交わしながら、多義的な「つくる」力を養うという意味で、最初の3つを私なりに抽出しました。具体的な活動では、プロポーザルに取り組み、最優秀賞という結果で実施プロジェクトとして今後も取り組んでいきます。来春からは解体構築ゼミも開始する予定です。どなたでも興味があれば是非研究室でお待ちしています。(齋藤研究室 3年秋葉美緒)



プロポーザル最優秀案 (杉並建築展2023展示の様子)



齋藤研 (1期) 面々



3年 埴龍 龍也くん
東北学院榴ヶ岡高校 出身

Pick Up Student 私は現在、大学、特に研究室で充実した日々を過ごしています。所属は、構造系の船木研究室で、ここに入ることが高校からの夢でした。その夢の場所で、憧れの船木先生の下で勉強ができていて、人生で一番幸せだと言っても過言ではありません。卒業後は修士課程に進学する予定で、その後は更に博士課程へ進学、最終的には研究職に就きたいと考えています。研究室に関連する学習を始めてから、高校の頃はなにに使うのか分からなかった数学などの理論がどれほど重要だったのかを痛感している毎日です。順調に進めば、学部4年次を含め、残り6年間を大学で過ごすこととなりますが、これからも怠ることなく勉学に励んでいく所存です。



1年 櫻井 琴音さん
仙台第三高校 出身

Pick Up Student 大学に入学してまもなく1年が経とうとしています。普通科高校出身で建築の知識もほとんどないため、ゼロからのスタートでした。そんな私が常に意識していたのは疑問に思ったらすぐ調べるということです。学校にいる間に疑問を解決して家で復習する、その繰り返しで建築の知識を増やし自分自身が成長するために必要なことだと考えています。1年間を振り返って特に印象に残っているのは設計課題です。自分の作業スピードを考えながら計画的に取り組みました。先生や友達との話し合いや講評会の際に、今までの自分の中にはなかった新しい視点をたくさん学ぶことができ楽しかったです。これからも周りの人と支え合い、充実した大学生活を送っていきたく思います。